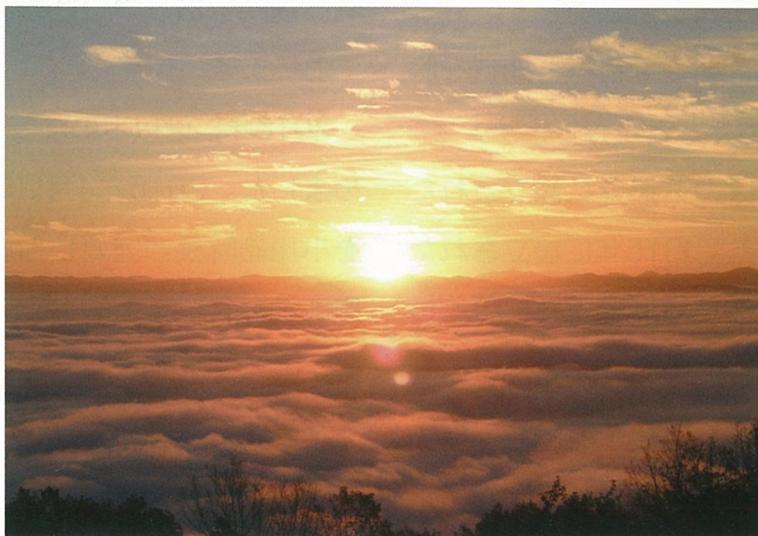


東名古屋病院だより

平成29年1月発行 第66号



理念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
2. 地域に密着し、心の触れ合いを大切にした医療を提供します。
3. 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
4. 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。

目次

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 2 P : 巻頭言 | 7 P : 情報提供(治験(ちけん)て何?) |
| 3 P : 病気とのつきあい方 | 8 P : トピックス |
| 4 P : 看護部紹介 | 9 P : 地域医療連携室 |
| 5 P : 部署紹介 | 10 P : 外来案内、外来診察担当医表 |
| 6 P : 医師紹介、新年のご挨拶 | |



独立行政法人 国立病院機構
東名古屋病院
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL



〒465-8620
名古屋市名東区梅森坂5-101
TEL 052-801-1151
FAX 052-801-1160
ホームページアドレス
<http://www.tomei-nho.jp/>

新年のご挨拶



病院長 今井 常夫

新年あけましておめでとうございます。みなさまにおかれましては、新たな目標と期待を胸に、新しい年を迎えられたことと存じます。

東名古屋病院は古くは大正11年に設立された名古屋市立八事療養所と昭和15年に設立された名古屋市立梅森光風園の結核療養所を起源とします。おのおのの結核療養所が昭和22年に厚生省管理下の国立療養所となり、昭和43年9月にふたつの療養所が梅森光風園に統合し国立療養所東名古屋病院として発足しました。統合してまもなく建設されたのが現在の管理棟および病棟などの建物です。これらは築45年となるところで、東および西病棟に入院されている患者さんには古い設備でご迷惑をおかけしております。東西病棟を病院玄関前の駐車場の位置に新築移転する設計図がすでに2016年当初には完成していました。しかし土地用途の問題などで建築許可申請が受理されず、予定より1年半くらい遅延することとなりました。2013年にオープンしたぬくもりサポート館に引き続いて新病棟建設が職員一同の次の目標でしたが2016年は予定通りに進まず、患者さん・ご家族のみなさまには今しばらくご辛抱いただくこととなります。

また病棟で異臭事案が発生し、患者さん・ご家族はじめ職員にも大変心配をおかけいたしました。異臭事案発生後は、さまざまな業務の見直しや対策を講じております。幸い患者さんへの健康被害はまったく発生せずに済んでおります。患者さん・ご家族が安心して診療を受けら

れる病院でありつづけるよう努力したいと考えております。

2016年には以下のような新しい取り組みを始めました。2016年4月に呼吸器感染症専門外来を小川副院長が開始し他施設では対応が困難な患者さんの診療を受け入れております。2016年12月にリハビリテーション部門へ患者さんに装着するサイボーグ型ロボット「HAL® (Hybrid Assistive Limb®)」が導入されました。これは神経難病の患者さんの治療に保険収載されており、2017年には実地臨床が開始される予定です。

さらに2016年は当院に6名の医師が着任しました。3月に整形外科佐藤医師、4月に院長の今井常夫、耳鼻咽喉科の伊藤医師、呼吸器内科の福井医師、八木医師、7月に循環器内科の三井医師です。院長以外は新進気鋭の若い医師ばかりで東名古屋病院の活性化に大きく貢献していただいております。看護部、リハビリテーション部、薬剤部、検査部、放射線部、事務部門においても新卒者の新規採用はじめ国立病院機構内の異動など、常に外の息吹が入っています。2017年4月には新戦力となる新たな職員を迎えることとなりますが、ベテランと若手が力をあわせて診療にあたり、より質の高い安全な医療を提供できるようにしたいと考えます。

最後に2017年がみなさまにとって良い年になりますことを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

病気とのつきあい方

病気について



消化器内科医長 高橋 宏尚

健康で過ごしたいと願うことは誰もが思われることではないでしょうか。しかし、人間である限りは病気になってしまうことを完全に避けることはできません。一方で病気にはある程度、予防が可能なものがあります。糖尿病などの生活習慣病は食生活、運動、睡眠等の日常生活に

- 気を配ることによって発症を避ける、あるいは避けることはできなくても発症を遅らせることはできると考えられます。また、人間ドック等を活用することにより、身体の状態を把握することで何に注意を向けるべきかがわかります。例えば体重過多があり、コレステロールの高値を指摘された場合は食事運動療法によって適正体重に近づくよう努める必要があります。それでも数値が改善しないようであれば内服治療を開始することで将来、心筋梗塞などの重大な病気になるリスクが低減されることが考えられます。また、最近、話題となっているピロリ菌ですが、感染している場合、胃がんになる確率が有意に高いことがわかっています。胃カメラで慢性胃

炎が認められ、ピロリ菌が陽性であれば除菌治療を受けることができ、除菌治療が成功すれば将来の胃がんへの罹患リスクが低減されることが期待できます。

一方でいくら注意をしても病気になってしまうことはあります。しかし、どんな病気でもほとんどの場合、何らかの前兆があります。何がしかの症状を感じられたら早目に医療機関を受診することで、仮に病気になっていたとしても早期に発見できる確率が高まり、その後の治療もうまくいく可能性が高くなります。

病気を100%避けることはできません。しかし、日常の生活で前述させていただいたことを少し意識していただければ、罹患リスクの低減及び病気の早期発見につながります。そのお手伝いをさせていただけることが我々医療人の最大の喜びであり、誇りです。



看護部紹介

東4階病棟

(外科・整形外科・泌尿器科・消化器内科)

東4階病棟病棟師長 丹羽 早苗



東4階病棟は外科、整形外科、泌尿器科、消化器内科の混合病棟です。

外科は主に消化器、呼吸器、乳腺の手術を行っています。腹腔鏡下手術も含め様々な治療をしています。当院では非結核性抗酸菌症の治療もしていますので、外科治療として胸腔鏡下肺切除術が行なわれています。また、平成25年度から乳腺外科外来が開設し、徐々に受診の患者様が増えてきています。センチネルリンパ生検を行うようになり、以前に比べ切除の範囲が小さくすむことも多く退院後の生活への影響も少なくなってきました。手術後には早期から歩いていただき元の生活に戻れるように看護しています。

整形外科では、大腿骨頸部骨折での手術や胸椎、腰椎の圧迫骨折などの患者様の看護をしています。手術後は早い時期に回復期リハビリテーション病棟に移り退院に向けてリハビリをしていただくことも多いです。医師、リハビリテーションスタッフ、退院調整看護師らとも協力して退院に向けて調整をしています。突然の受傷で不安を感じている方も多いため、安心して入院生活を送れるように心の支えになりたいと思っています。

泌尿器科では、男性だけでなく女性の悩みでもある尿失禁などの手術も行っています。プライバシーを尊重し不快感を最小限にできるよう工夫しています。

消化器内科では、内視鏡治療の患者様を中心に看護しています。短期間の入院ですが、安心して治療を受けられるように入院から関わらせていただいています。



院内の中でも患者様の入れ替わりが一番多い病棟ですが、患者様の個別に合わせて丁寧に看護することを大切にしています。混合病棟のため、様々な病気、治療がありますので、看護師として幅広い知識、経験が必要です。それぞれの得意分野を活かしながらスタッフみんなで協力して、患者様に安心して入院生活を送っていただけるよう今後も日々努力していきたいと思っています。

部署紹介

リハビリテーション学院

理学療法学科教員 川瀬 翔太



現在1年生の担任をしております理学療法学科の教員の川瀬翔太と作業療法学科の教員の梅田雄嗣と申します。

平成28年4月4日に満開の桜が迎える中で第38期入学式が行われ、理学療法学科20名、作業療法学科20名のあわせて40名が入学をしました。1年生は愛知県内や東海地方を始め、関東、北陸、九州など各地から集まっております。入学から半年が経って学生生活や授業にも慣れてきました。平成28年度は11月8日現在、2年生・3年生を含め全114名の学生が在籍をしています。

本学院はリハビリテーションに従事する理学療法士・作業療法士を養成する3年制の学校であり、東海地方としては初めて、国立病院・療養所附属のリハビリテーション学院としては全国で4番目の養成校として開設されました。1982年までに9校が設置されましたが、2004年に独立行政法人へ移行したことにより閉校が相次ぎ、現在では当学院が国立病院機構内で唯一存続する養成施設となっております。

病院附属の養成校という恵まれた環境を生かし、1年生の前期から実際の臨床現場を見学する機会も多くあり、自らが志した理学療法士・作業療法士とは何か、そして医療人とはどうあるべきかという視点で日々学んでいます。2年生になると、院内の医師などからの専門的な授業が増えてきます。3年生は7月末から12月末まで臨床実習で学院外の病院や施設へと向かいます。

また、学院説明会が年に3回開催されており、今年も非常に多くの方々にご参加いただきました。特に10月に行われた第3回は学院祭とあわせて行われ、同時に開催された公開講座では作

作業療法学科教員 梅田 雄嗣



業療法学科の教員による“こころのメンテナンス”ということで、うつ病についての対応や対策についてお話ししました。

学生指導において心がけていることは、確かな知識や高い技術を身につけることはもちろんのこと、報告連絡相談が確実にできることや常に相手のことを思いやり豊かな人間性を身につけられた信頼される理学療法士・作業療法士となるように指導しております。

今後も国立病院機構唯一の養成校として、良質な医療人を送り出すべく学生教育に邁進して参ります。ご家族や親戚、友人などで理学療法士・作業療法士に少しでも興味がある方がございましたら、ぜひとも当学院をご紹介いただければと思います。

尚、平成29年1月20日（金）に平成29年度の一般入学試験を実施します。詳しくは学院のホームページ<<<http://www.gakuin.tomei-nho.jp>>>をご覧ください。

一緒に楽しい学院生活を過ごしながら立派な理学療法士・作業療法士を目指していけたらと思います。教職員一同心よりお待ちしておりますので、どうかよろしくお願い致します。



医師紹介



循環器科医師 三井 統子

この度7月1日から循環器医師としてお世話になっております。当院では循環器医師の増員に伴って心臓カテーテル検査、治療も再開しております。循環器領域のみならず気になる症状がありましたら何でもお気軽にご相談ください。患者さんに寄り添いながら日々精進してまいりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶



旧年中は当院事業にご協力を賜り厚く御礼申し上げます

本年も地域の医療・福祉の向上に精励努力いたしますのでご指導 ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます

平成二十九年 元旦

独立行政法人国立病院機構東名古屋病院

院	長	今	井	常	夫
副	院	小	川	賢	二
臨	床	岡	村	菊	夫
統	括	犬	飼		晃
外	科	加	藤	俊	之
リ	ハ	饗	場	郁	子
看	護	服	部	み	彥
	職	員	一		
			同		

治験(ちけん)て何?



副薬剤部長 長岡 宏一

治験とは、研究室などで見つかったお薬候補の物質をお薬として国から認めてもらうために、効果と安全性の確認をする研究のことです。その治験には、患者さんにお薬を問題無く使って頂くために、3つのステップがあります。まずは、健康なボランティア（ごく少数のボランティアの患者さんの場合もあります。）で安全性を確認します。次に、少数のボランティアの患者さんで、効果と安全性を確認し、あわせて、最も適したお薬の量を決めます。その次に、もう少し多くのボランティアの患者さんで効果と安全性を再確認します。その上で国が認めると、はじめて患者さんに新しいお薬として広く使っていただけることとなります。言い換えれば、治験が無ければ、新しいお薬による治療が出来ないと言えます。

さて、ここで何度も「安全性の確認」という言葉が出たように、治験はご協力いただくボランティアの患者さんの安全を最優先に行われています。そのため、国は病院で治験を行うにあたって、ボランティアの安全が配慮されているか定期的に委員会で審査することを義務付けています。また、私たちが予想できない副作用が起こる場合も想定し、緊急時の対応がとれる医療体制も求めています。さらに、詳細かつ頻回な検査を行うことにより、副作用の早期発見にも努めています。

それでは、このあたりで治験に協力するボランティアの患者さんの立場から、治験の良い点、

悪い点を少しまとめてみます。まずは良い点ですが、通常の診察より詳しい検査を受けられますので、ご自身の体の状態をより正確に知ることが出来ます。何よりも、いち早く新しいお薬（候補）を試すことができます。次に悪い点ですが、決まった日に来院しなければならず、加えて来院回数が増える場合もあります。その他にも、必ず決まった時間に服薬しなければならぬ、服薬の記録をつけるなどの様々な制約があります。また、検査項目や回数が多くなり、採血量が多くなったりもします。しかし、これらの悪い点の多くはご協力していただけるボランティアの患者さんの安全性を最優先するためのものですので、ご理解いただきたいと思います。

ところで、当院においても呼吸器内科や神経内科を中心に治験を行っています。

新しいお薬を多くの患者さんにできるだけ早く使っていただくためには、何よりも治験にご協力頂ける患者さんの力が必要ですので、是非力を貸して下さい。宜しくお願い致します。



トピックス

●第11回ふれあいコンサート

名城大学薬学部管弦楽部の皆さんによる第11回ふれあいコンサートを、8月24日（水）当院外来ホールで開催しました。



●第12回東名セミナー



地域の方々や医療関係者の方々に役立つ、様々な医療情報を継続して発信することを目的とする東名セミナーを、10月15日（土）に開催しました。「耳と聞こえのおはなし～こんなときは耳鼻科へ～」(耳鼻咽喉科 伊藤陽子医師)、「皮膚科の選び方・かかり方」(皮膚科 加藤愛医師)の講演及び健康フェアを実施しました。

●市民公開講座

「長引く咳や痰で悩んでいませんか？～近年急増している非結核性抗酸菌症(肺MAC症)を知りましょう～」をテーマとして、「非結核性抗酸菌症(肺MAC症)はどんな病気か?」(微生物免疫研究室長 中川拓医師)、「肺MAC症と診断されたらどうするか-Q&Aでの解説-」(副院長 小川賢二医師)、「非結核性抗酸菌症(肺MAC症)診療の近未来」(慶應義塾大学医学部感染制御センター教授 長谷川直樹先生)の講演を10月22日(土)メルパルク名古屋において開催しました。



新しく変わった退院調整について

退院調整担当看護師長 寺谷 里代



本年6月より退院調整看護師長として地域医療連携室に勤務しております。平成28年4月より診療報酬の改定により当院は退院調整加算1を算定することになりましたのでその内容について紹介をしたいと思います。

当院では、退院調整専任のスタッフ（退院調整看護師・ソーシャルワーカー）が入院した全ての患者様に退院調整が必要かを入院後3日以内にスクリーニングをし、該当になった患者様やご家族様に直接面談した後、退院支援計画書を作成させていただきます。そのことで患者様の治療が進み、改善され療養が可能になった際に、安心して退院ができるよう、必要な調整をさせて頂いています。調整の内容はその患者様やご家族様が望まれる退院の形が達成できるよう、在宅でのサービス調整や、病院への転院、施設入所などをお手伝いさせて頂いています。

自宅に退院をしたいが退院後の介護が不安で、どんなサービスがあるかもわからない方も少なくないと思います。介護保険の申請方法をお教えしたり、担当ケアマネジャーと連絡を取り、在宅で行なえるサービスを一緒に考えるためのカンファレンス等を行ないます。また、どうしてもご家族様での介護が大変で施設や病院に入らなければならない場合は、その方に合った施設や病院の情報を提供させていただきます。患者様やご家族様の希望をできるだけ叶えられるよう、複数の施設と連絡をとり、できるだけスムーズに調整ができるよう努力いたします。

退院調整チームのメンバーは退院調整看護師長、退院調整看護師、ソーシャルワーカーで構成されています。退院調整看護師は、療養生活を行なう上で医療・看護・介護の面から生活支援などの援助を得意とします。また、ソーシャルワーカーは社会的な面から生活支援をしていく事を主眼に置き、行政・福祉・保健等の知識を豊富に持っています。退院調整看護師長はその両者と共に該当になった全ての患者様の退院支援共同カンファレンスに参加し意見調整を行ないます。その三者が協力し合い、病棟の看護師と共に、患者様個々の希望に合った退院調整ができるようチームで関わっています。

以上のように入院された全ての患者様が安心して退院後の療養や生活が行なわれるよう支援をさせていただきます。また、地域医療連携室では退院後、新たに困った事が起きた際のご相談も受け付けています。いつでも当院の地域医療連携室にご相談下さい。



外 来 案 内

- 診療受付時間
- 診療開始時間
- 休 診 日
- 初診時の特別料金

午前8時30分～午前11時まで（緊急の場合はこの限りではありません）

午前9時～

土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）

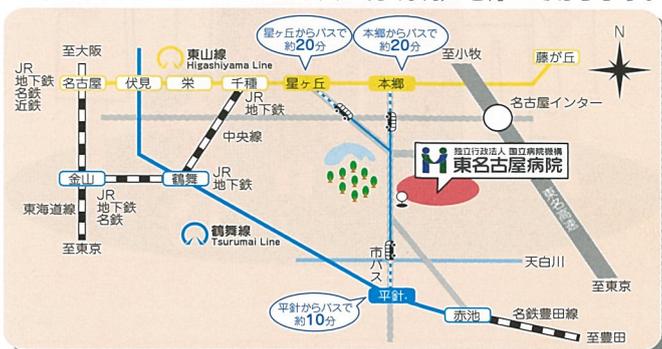
他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,160円（税込）をいただいております。ご了承下さい。
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

外来診察担当医表

（平成29年1月1日現在）

診療科	月	火	水	木	金
(初診)	八木 光昭	福井 保太	林 悠太	山田 憲隆 中川 拓 第1・3 第2・4・5	垂水 修
呼吸器内科	垂水 修	清水 信	福井 保太	八木 光昭	林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓 小川 賢二 第1・3 第2・4・5	小川 賢二	中村 俊信
呼吸器感染症専門外来		小川 賢二 第1・3 13:30～16:00			
循環器内科	三井 統子	野田 浩範	三井 統子	野田 浩範	西村 和之
(初診)	犬飼 晃	横川 ゆき	橋本 里奈 第1・3・5 片山 泰司 第2・4	饗場 郁子	齋藤由扶子
神経内科	饗場 郁子	片山 泰司	犬飼 晃	齋藤由扶子	榊原 聡子
	横川 ゆき		榊原 聡子	橋本 里奈	
消化器内科	横井 美咲	高橋 宏尚	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)	小林 慶子	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)
呼吸器外科			山田 勝雄		
外科・消化器外科	渡邊 正範	加藤 俊之 野浪 敏明	永田 博	永田 博 加藤 俊之	渡邊 正範
肛門外来	渡邊 正範	加藤 俊之	永田 博	永田 博	渡邊 正範
乳腺外科	遠藤登喜子 林 幸枝 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	小川 弘俊 13:30～15:30	遠藤登喜子 角田 伸行 8:30～11:00, 13:30～15:30
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	金子真理子	佐藤 彰二	大場 満成	金子真理子	佐藤 彰二
リウマチ科			大場 満成		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫		青田 泰博 午前 岡村 菊夫 13:30～15:30 女性泌尿器科外来		岡村 菊夫
精神科					宇佐美 敏
総合内科		峯村 信嘉 横井 俊介		内海 眞	
血液・腫瘍内科	清水 一之	朴 智栄	清水 一之	神谷 悦功 午前 小椋美知則 午後（隔週）	神谷 悦功
禁煙外来		(予約制) 13:30～14:30			
内分泌内科				大竹 裕子	溝口 暁 第1 伊藤 崇浩 第2・4 小林 明子 第3・5
小児科	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛	田中 伸 第4 12:45～14:45	加藤 愛
歯科口腔外科	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則
ドック	外来人間ドック (予約制)				
耳鼻いんこう科		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	

※予約制は再来診の場合のみです。初診の場合は通常どりの診療となります。
 ※救急診療は、時間外・休日も行っていますので、時間外窓口にご連絡下さい。(052-801-1151)
 ※当院では、隔週月曜日に外来人間ドック（予約制）を行っていますのでご利用下さい。
 ※セカンドオペニオン外来（予約制）を行っていますのでご利用下さい。
 ※小児科・禁煙外来は完全予約制です。
 ※女性泌尿器科外来・乳腺外科・血液・腫瘍内科 午後（隔週）の受付時間は15:30までとなっております。
 ※月曜午後にはアロマテラピー外来（予約制）を行っています。



- 地下鉄東山線星ヶ丘駅下車
 - ・市バス③番のりば
 - ・東名古屋病院行き } 約15～20分 東名古屋病院にて下車
 - ・梅森荘行き
 - ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分
- 名鉄豊田新線・地下鉄鶴舞線赤池下車
 - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄鶴舞線平針下車
 - ・市バス①番のりば本郷行き約10分 東名古屋病院にて下車
 - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄東山線本郷駅下車
 - ・市バス①番のりば地下鉄平針駅行き 15～20分
 - ・東名古屋病院にて下車
- 東名高速道路名古屋インターより車で約20分